

唐津市立西唐津小 平成23年度学力向上アクションプラン

1 テーマ 自ら学び、自信に満ちた児童の育成

2 学習指導の重点目標・・・学習する意欲・態度と学ぶ力を育てる

- ◎ 児童の特性・能力を把握し、個に応じた学習指導・学習習慣の形成に努める。
- ◎ 基礎・基本の指導の徹底及び授業規律や家庭学習が定着する手立てを工夫する。
- ◎ 校内研究「場面に応じて、言葉を適切に表現し、正確に理解できる児童の育成」をめざし、指導方法を工夫する。

3 現状把握と課題認識

＜各種テスト結果より＞

- 昨年度末(H23. 1実施)のCRTテスト(観点別標準学力調査 国語、算数 2～6年)では、5年生を除き2～6年生まで全ての学年で全国及び市平均を下回っている。特に、国語では5年生を除く全学年で4～6ポイント、算数では、2, 3年生が7～8ポイントの差が出ている。教科別に見てみると、国語では、話す・聞く、言語面、算数では、数学的な考え方、領域では量と測定、図形に差が大きく出ている。
- 本年度4月実施の佐賀県学習状況調査(5・6年生対象 国語、社会、算数、理科)における県平均正答率との差は、5年生は社会以外平均値を上回っているものの、6年生は、3～10ポイント、どの教科でも大きな差がついている。教科別に見ると、社会科において両学年ともに差が大きく開いており、5年生6ポイント、6年生10ポイントとその数値はかなり大きい。
- 昨年度実施の唐津市基礎学力テストの全校平均点を見ると、国語では、安定した結果が全体として出ていると思われるが、算数では、高学年に春休み後の3回目に大きな落ち込みが見られ、全校の平均点が下がった。しかし、今年度9月に実施された第1回目の結果は、下記のように、昨年度(1回目)の平均点を国語、算数ともに上回った。

◇H22・23 基礎学力テスト全校平均点

	国語	算数
H22 1回目(9月)	93. 4	93. 6
H22 2回目(1月)	96. 6	94. 4
H22 3回目(4月)	95. 3	90. 4
H23 1回目(9月)	95. 3	94. 5

＜平成23年度佐賀県学習状況調査:意識調査(5・6年生対象)より＞

- 宿題はしていると9割近い子が回答しているが、1日当たり(月～金)の勉強時間は、30分未満が約20%、また、土日に全く勉強をしない子が15%と、家庭学習の習慣が十分に定着しているとはいえない。
- 学習時における発表や説明、考えを話すことなどに苦手意識がかなり強い、また、どのように自分の考えをまとめるのかという点でよく分からないと感じている子が多い。
- 読書が好きと90%ほどが答えているが、実際の読書量は30分未満が半分を占める。
- 朝食を摂る率は94%ほどであるが、就寝時刻が遅い子(午後11時以降)が約25%近くいる。基本的な生活習慣が十分に身につけている状況とは言えない。

- テレビやゲームに費やす時間が非常に長く、5年生(テレビ等視聴、ゲーム2時間以上30%、)6年生(テレビ視聴2時間以上76%、ゲームの時間2時間以上25%)帰宅後の時間の使い方に大きな課題が見られる。

4 次年度へ向けた数値目標

(1)全国学力・学習状況調査

	国語A(主として知識)	国語B(主として活用)	算数A(主として知識)	算数B(主として活用)
西唐津小	県平均と同程度	県平均と同程度	県平均と同程度	県平均と同程度

(2)県学習状況調査

	国語	社会	算数	理科
西唐津小	県平均と同程度	昨年度比較 3ポイント上昇	県平均と同程度	県平均と同程度

(3)唐津地区基礎学力テスト

年間3回実施のテスト全てにおいて全学年国語・算数合格者割合90%以上を目指す。

5 学力向上へ向けたアクションプラン (●今年度取組の改善観点)

(1)学力向上に向けての取組

- 校内研究(国語科) ・スーパーティーチャーの招聘(理論研修・模範授業)
- チャレンジタイム ・プリント学習を中心としたスキル学習の継続
- きんぼし学習 ・生活、学習習慣の定着(アンケート形式による意識調査)
- 小中連携 ・授業の相互参観、中学校教諭による出前授業、情報交換研修会

● 授業改善

- ・ 普段の授業を顧みる ←授業改善チェックリストの活用(自己チェック)
- ・ 校内研究における研究授業後の研究会のあり方を考える ←授業研究会の活性化
- ・ 指導形態を工夫する ←TTによる指導(複数の指導者で行う授業)において、単元や実態に合わせ、別教室での少人数学習。また、コース別(進度・問題レベルに差をつける等)の選択学習。
- ・ チャレンジタイムを改善する ←担任とTT担当や級外の先生とともに指導を行う。

(全職員による複数指導者体制)

- 授業規律(学習規律、基本的学習習慣、学び方等)の確立 ← 全校で、小中のつながりを意識して取り組む。本年度は、「授業準備を確実にを行う」が共通目標。家庭との連携、協力の充実を図る。また、家庭学習についての実態をふまえて職員研修を行う。「家庭学習の手引き」の活用も含める)

- サマースクールの指導改善 ←各学年、グループ学年の取組に全職員が協力できる体制づくりを充実する。日程と指導者の組み合わせを工夫し、出勤している職員全員で個別指導にあたる。また、子ども一人当たりに向き合う時間を確保することで、

